

安心して生まれ、育ち、暮らせるふるさと生駒をつくろう

平成25年巳年 謹賀新年

生駒市立病院 : 市議会で建築予算可決、造成工事も完了

27年春開院へ、建築工事が始まります！

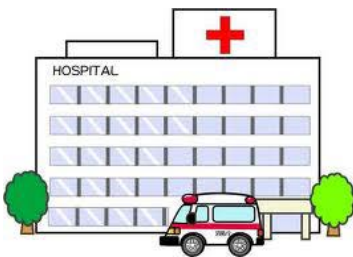
病院施設建築工事予算が可決し、事業加速！

昨年10月4日、9月議会の最終本会議で病院の建築予算約82億円が可決しました（賛成16，反対6）。大きな額ですが、実際には落札率65～85%の額に収まる見込みです。これで市議会の議決が必要な重要案件はほぼ議会を通過しました。

がん治療が充実します！

12月4日、市議会の病院事業特別委員会で市は市立病院に放射線治療機器リニアックを設置すると説明。同時にがん化学療法室の整備も報告。両方の導入により通院治療も可能となり、住民にとってはありがたいことです。高価な機器ですが、指定管理者制度で運営する市立病院では、機器は指定管理者負担です。

春から地域医療連携の協議開始！



12月9日、病院事業推進委員会では「地域医療連携」や市民の声を反映するための「管理運営協議会」について市から諮問がありました。

「地域医療連携」は推進委員会の中に専門部会を設置し協議、「管理運営協議会」は推進委員会での協議を提案。「地域医療連携」は本年4月から医師会代表、指定管理者、市民、学識経験者が参加し、協議することになりました。懸案の医療連携の構築に向け、関係者の話し合いが行われることになりました。

今後、リニアック導入に伴う設計変更により着工は2、3ヶ月遅れる見込みですが、平成27年春の開院は変わりません。



医療はハート

p2に関連記事 市立病院これまでの道のり！

病院施設建築工事予算、82億円に増額のわけ

計画当初の予算は50数億円。大幅な増額は駐車台数確保のための地下駐車場増設、市議会からの改善要請や徳洲会の現場スタッフの意見などを取り入れ見直したことに由来のものです。私はこの見直しは利用者、医療従事者、将来の住民にとって理にかなったものと考えています。なお、建築費用は起債により手当てしますが、将来的には、指定管理者からの納付金（減価償却費相当額）と国の交付金により返済できるため、市の持ち出しはありません（まり子ニュース20120520をご参照ください）。

おめでとう！ 成人式を迎えられたみなさんへ

伊木まり子

生駒小、生駒中を卒業した私もかつてこの生駒で成人式を迎えました。今日はおめでとう！ 大人の仲間入りをしたみなさん、先の総選挙をどう受け止めましたか？ 私は経済、社会保障、財源等々・・・いろいろ心配、特に、命に関わる原発と外交に不安を感じました。私たちは第2次世界大戦の敗戦国に生まれ、民主主義の大切さ、戦争放棄、“ノーモア広島”を学び育ちました。恵まれた国で過ごしていますが、1昨年の3月11日、未曾有の大災害に原発事故が重なりました。同じアジアのベトナムでは50年も前の戦争で使われた枯葉剤の影響で障がいを持つ子どもたちが今も生まれています。結合性双生児ベトさん・ドクさんを知っていますか？ ドクさんは日本の支援で手術を受け障がい乗り越え、子どもにも恵まれました。日本に感謝してフーシー[富士]とアンツダオ[桜]と名付けました。私たちの住む生駒市は昭和60年に非核・平和都市を宣言。そんな生駒のまちで成人式を迎えた私たちは、戦争、震災や原発の教訓を子孫に伝えること、大人としての自覚を持って様々なことにしっかり向き合っていくこと、それが勤めではないかと思ひます。みなさんはどう思いますか？

生駒はS60年から
非核・平和都市！



フーシー君とアンツダオちゃん

湘南鎌倉総合病院：徳田虎雄理事長と面談

湘南鎌倉総合病院は全国の徳洲会グループの病院のなかでも集大成ともいえる病院と思われます。生駒市立病院で提供可能な医療を考える上で一度は視察すべき病院と考えました。7月19日、桑原議員、山田耕三議員と共に視察。質の高い医療や患者さんの視点に立った心配りを確認。徳田理事長と面談では、筋肉が侵される難病と闘病中でありながら、生駒の救急医療を心配され、また、世界の医療過疎地域の人々への医療提供に情熱を注がれる姿を前に、頭の下がる思いでした。同病院では女医や看護師などのための『働きやすい病院評価認証(NPO法人Ejnet)』も取得。きっと、市立病院においても良い医療が提供されると思いました。



握手に代えて手を添えて

伊木

徳田虎雄理事長

宇治徳洲会病院：地元医師会の永久戦争宣言から連携へ

11月、生駒の地域医療を育てる会主催の視察バスツアーで20人の市民と共に宇治徳洲会病院を視察。同病院は救急医療、小児科医療も充実していて、生駒の救急車も受け入れています。昨年4月には京都府から救命救急センターの指定を受け、府下で最も多くの救急患者が搬送され、地域になくてはならない病院になっています。しかし、開院当初は地元医師会から『永久戦争』と言われるくらい強い反発があったとのこと。その後、5年目に医師会に入会。今では186人のかかりつけ医が同病院の登録医として病院医師と連携し、患者さんを診療するシステムも構築。生駒市では現在のところ、市と地元医師会との関係は必ずしも良好とは言えませんが、今後は良い関係が構築されると期待を膨らませて帰ってきました。

(湘南鎌倉総合病院の視察報告は伊木まり子後援会ホームページからご覧になれます)



医療はハート

伊木の主張：市立病院事業においては市議会での建築予算可決までいくつもの山がありました。建築予算審査の際にも「徳洲会との基本協定が未締結。契約書を取り交わしていないので予算は認められない」として反対される議員もありました。しかし、今一度、指定管理者制度による病院運営を考えてみてください。指定管理者制度では生駒市が作成した計画に沿って、指定管理者が病院を運営します。その際、市は起債し病院を建設、その施設を使って、指定管理者が機器や医師・看護師などの人材を手当し運営します。建物の概要は予算が可決し、初めて確定します。反対議員の中にはこれまでから、病院施設の縮小を何度も主張された方もいます。医療提供に必要な規模以下の建物での運営を求められる可能性のある段階で基本協定を結ぶ(契約書を取交わす)事業者があるのでしょうか？基本協定書という契約書が無くても徳洲会との契約

は、民法上、徳洲会が生駒市の条件を呑んで応募し、生駒市が徳洲会を指定管理者として内定した時点で成立しているため、協定未締結は予算反対の理由にはならないと考えます。むしろ、ここ数年、いくつもの公立病院の経営破たん経験から『住民が病院を自分たちのものとして主体的にとらえることが病院再生への道』と言われている時代に、約束さえ取り付ければ市立病院事業は大丈夫と考えたとしたら、それこそ不勉強と言わざるを得ません。指定管理者任せにすることなく、市、市議会、住民が智恵を出し合い、力を合わせなければ、末長く運営される市立病院はできません。市民の代表である議員がその自覚を持つことが何よりも大切と考えます。議会として徳洲会を指定管理者として決定した以上、議員には、市立病院事業を主体的にとらえ、徳洲会の医療の実情を知り、よりよい方策を提案していくことが求められると考えます。

～ ちょっと紹介 ～

在宅ホスピス・緩和ケアを学ぶ

8月26日、北コミュニティセンターで開催された奈良県後援の在宅緩和ケア特別講演会を聴講。生駒は全国でも在宅での看取りが多い街とのこと。住み慣れた家で痛みや苦しみから解放され、最後を迎えることができるなら、それは本人だけでなく、家族にとってもありがたいのではないかと思います。

生駒市医師会会長溝口精二先生がご講演

10月20日、メディカルセンターで生駒の地域医療を育てる会主催の講演会『かかりつけ医の現状と課題』(マイサポいこま補助事業)開催。かかりつけ医について、医師会の役割、地域医療の現状、寝込まないための心得などを話されました。



るりのつき

“第64回正倉院展”より

正倉院展へ

秋の夕刻、思い立って正倉院展へ。古文書に“往馬神”への奉納とあり。12月、往馬大社火祭りや乙田浄瑠璃が熱く語られたシンポジウム『生駒の歴史と文化をさぐる』へ。太古から繋がる遺伝子に思いを馳せました。

環境首都創造 自治体 全国フォーラム

11月19・20日、北コミュニティセンターに環境問題に取り組むNPOや環境日本一のまちづくりを目指す自治体の首長などが集結。専門家の講演、先進事例紹介など盛りだくさん。公害による悲劇の舞台となった水俣市も新たな取り組みを始めています。

医療救護所の立ち上げ訓練実施！

音楽祭、今回も感動の内に閉幕！ 10/29-11/4

防災、とりわけ災害時の医療救護体制の整備は私のテーマ。5月には白庭台で実施された「消防署・警察署・白庭病院合同大規模災害訓練」を見学。バス停に車両が突っ込んだ想定。倒れている何人もの負傷者役の人をトリアージし、病院に搬送する訓練でした。平素からの訓練の必要性を再確認。9月議会の委員会審査の際に、市に対し、災害を想定した医療救護所設置の現地訓練を要請。

12月2日、市・自治連合会共催の防災訓練ではM7.2の地震を想定し、県の防災ヘリコプターや自衛隊の炊き出し車両も参加。真弓小学校の校庭にテントが2つ設置され、医師会の協力のもと医療救護所が立ち上がりました。中での段ボールベッドの組み立てに時間がかかり、負傷者が運ばれてきても間に合わない？しかし、医療救護所では使用しないとのこと。2人の医師によりトリアージが行われましたが、負傷者の想定や薬剤・医療機器の準備に課題が残ると感じました。そのため、12



5/23 白庭台にて

月議会で、阪神大震災や東日本大震災の教訓ををしっかり参考にして医療救護体制の整備をしてほしいと要請しました。

昨年1月の私のニュースで紹介しましたが、今回、もっと多くの方に知ってもらいたいと『いこま国際音楽祭を盛り上げる議員有志の会』を呼びかけ、チラシの駅頭配布やポスティングを行いました。

音楽祭は市と市教育委員会も共催の形で開催していますが、ほとんど市民ボランティアからなる実行委員会が運営。今年は音楽祭の録画に自主学習グループの20人の応援が加わりました。会場の装飾、出演者の接待などもボランティア。近鉄百貨店ではドイツワインの販売も行われ、少しずつ協力の輪が広がっているようです。

今回も小学校で『世界はともだち音楽塾』を開催(新聞記事)。公開レッスンには市内の小学1年生も受講、受講生選抜コンサートで上達したピアノを披露。3・11の被災木材で作ったヴァイオリンも童謡赤とんぼを奏でました。ブラームスやドビュッシーの曲から、市内の小中学生と共に生駒山麓太鼓保存会も加わり演奏された音楽祭のための新曲(徳山美奈子氏作曲)など多数、最後はジャズと、感動と興奮のうちに閉幕しました。



11/14 奈良新聞

報告・・・

前市長時代の汚職事件

昨年5月、中本前生駒市長死去。平成22年に公園用地取得をめくり背任と加重収賄の罪で大阪高裁から実刑判決を受け最高裁に上告中でした。生駒市が提訴した6,100万円余りの損害賠償を求める民事訴訟は相続人に引き継がれ最高裁で継続中です。

一方、公園用地取得や足湯工事をめぐり、あっせん収賄と背任の罪に問われた酒井元市議会議長は、10月30日付で最高裁が上告の棄却を決定。懲役3年6ヶ月、追徴金1,400万円の実刑が確定しました。



議会の予定(2/2,3以外は市役所5階議事堂で開催)

- 2月2,3日 市民懇談会(詳細は広報いこま1/15)
- 2月25日 13時 議案説明会
- 2月28日 10時 議会運営委員会
- 13時 全員協議会
- 3月6日 10時 3月議会開会 本会議・一般質問
- 7-11日 10時 一般質問終了後、本会議(予定)
- 3月13-18日 10時 委員会審査(予算審査あり)
- 3月21日 10時 予算審査特別委員会
- 3月25日 10時 最終本会議

左：若松は知人の作品。私は水盤の菊とご近所の方が育てたレモンを添えました。右：秋、プランターになぜキャベツ？冬、葉ボタンに変身!! 昨年植えた葉ボタンの種がこぼれたようです。これで1本です。

編集後記

今年で議員の仕事も丸6年になります。昨年市立病院問題中心の1年でしたが、地元自治会の役員も務めこれまで以上に地元に着目した年でした。ニュースの発行は2度に留まりました。後援会のホームページ、ブログなどは修復もしくは新調が必要となり、見苦しい状況で申し訳ありません。今年には棚上げてきた病院以外の課題にも取り組みたいと思っています。 まり子

ホームページ
近いうちに
改修の予定です
<http://www.eonet.ne.jp/~ikomanomirai>